

上ノ国町次世代育成支援

後期行動計画を策定！

基本理念を

『今、上ノ国のすべての人々に生命をいづくしみ育てる結いの心を』に

町では、平成17年度から26年度までの10年間実施している

「上ノ国町次世代育成支援行動計画」の「後期行動計画」を定めました。



この行動計画は、平成15年に成立した「次世代育成支援対策推進法」に基づき策定されたもので、地域、事業者、行政などそれぞれの立場から子育てを支援する役割が定められています。計画期間は10年間ですが、

前期5年、後期5年に分け行動計画を定めることとしており、平成17年から5年間は前期計画に基づき行動してきました。

しかし、前期の行動期間中も、少子化が進みさらに、子どもを取り巻く環境も変化し続けています。そこで、昨年5月に小学生以下の子どもを育てる家庭を対象にニーズ調査を行い、この結果を基に内容を見直し、平成22年度から26年度に実施する後期計画を作成しました。

○ニーズ調査の結果は？

調査の回答を得た約55割が「子育てしやすい町」として評価し、特に父親が母親の支えとなっている家庭で評価が高い傾向でした。

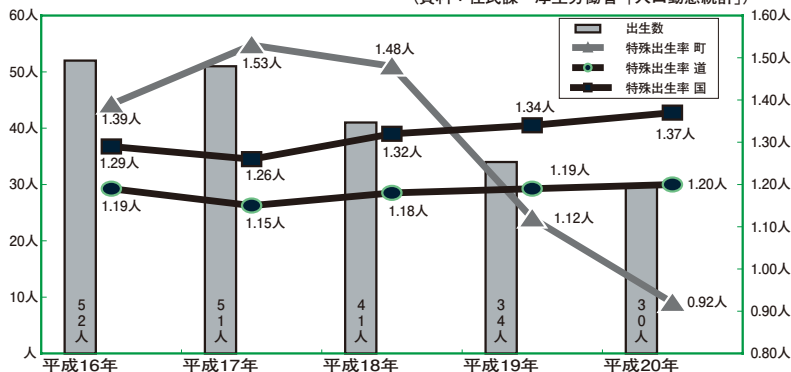
続いて、子育てする上で充実してほしい支援として「公園の整備」「医療機関・医療体制の整備」「経済的支援」を挙げており、これらは「子育てしやすい町」と答えた家庭から多く求められました。

一方、母親の就労状況は、約35割がフルタイムで、パートをあわせると60割以上が就労している現状から、子育てと就労が両立できる環境が求められています。

家庭から地域に求めるものとして、半数以上から「子どもの安全確保のための活動」を、次いで「文化やスポーツなど、子どもの個性を伸ばす活動」を望んでいることから、地域ぐるみでの見守りや子どもの健全育成への取り組みが求められています。

上ノ国町出生数・合計特殊出生率の推移

(資料：住民課・厚生労働省「人口動態統計」)



少子化がすすむ上ノ国町

少子化の典型的な指標として合計特殊出生率（女性が一生の間に生むと推定される子どもの数を示す）が用いられ、全国では平成17年を境に増加傾向です。本町では、平成18年までは全国や北海道よりやや高い傾向にありましたが、平成19年以降は一転、全国や北海道よりも低く、急速に少子化が進行しています。

